

再評価実施事業調書

番号		事業名	広域基幹河川改修事業		路線又は箇所名等			(二)栗山川水系栗山川	
事業所管課			河川整備課		事業主体			千葉県	
事業化 年 度	昭和 49 年		用地着手 年 度	昭和 49 年	工事着手年度	昭和 49 年度		再評価 の理由	⑥
費用便益比 B／C	2.1	総費用	57.9 億円	総便益	121.1 億円	基準年	平成 19 年度	供用開始 年 度	平成 38 年度

事業概要

(目的)

栗山川流域では、近年市街化の発展及び河口3.0k～8.0k付近の未改修区間の影響で未改修区間沿川、本川上流域及び支川流域で浸水被害が多発し、治水安全度が低下している。

上流の開発に伴う流出増に対応するため、狭窄区間の河道整備とその付帯工事を行い、周辺開発と整合を図った良好な社会基盤の整備に資するため河川整備を行う。

事業計画区間長 17,206m

(築堤 17,206m 掘削 8,347,000m³ 橋梁 9 橋 樋管 53 基 排水機場 22 箇所 堰 1 基)

事業の進捗状況

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	進捗率(%)
全 体	147.77	75.38	51.0
工 事	105.36	39.37	37.4
用 地	42.41	39.37	92.8

社会経済情勢等

①流域状況

栗山川は、指定区間延長 33.7km、流域面積 284.5km² の二級河川である。栗山川は、房総導水路および両総用水を兼用しており、利根川から取水された水は栗山川を通じて流域を含む九十九里地域や房総地域へ農業、都市用水として供給、送水されている。

流域の低地部には水田が広がり、市街地は JR 総武本線沿線に広がっている。現在、市街化の進展や圏央道建設に伴う開発促進によって流出量の増大が懸念されており、これらに対応するため河道改修が鋭意進められている。

近年、河道改修の効果により洪水時の浸水被害が減少傾向にあるものの、水田や低い土地にある家屋及び幹線道路の浸水等の被害が発生しており、さらに流下能力が不足している区間の治水安全度の向上が望まれている。

②主な水害状況

- ・平成 11 年 10 月(大雨) 浸水戸数 172 戸 浸水面積 1,950ha
- ・平成 16 年 10 月(台風 22 号) 浸水戸数 26 戸 浸水面積 1,955ha

③投資効果

- ・浸水戸数 222 戸
- ・浸水面積 2,024ha

④関連事業

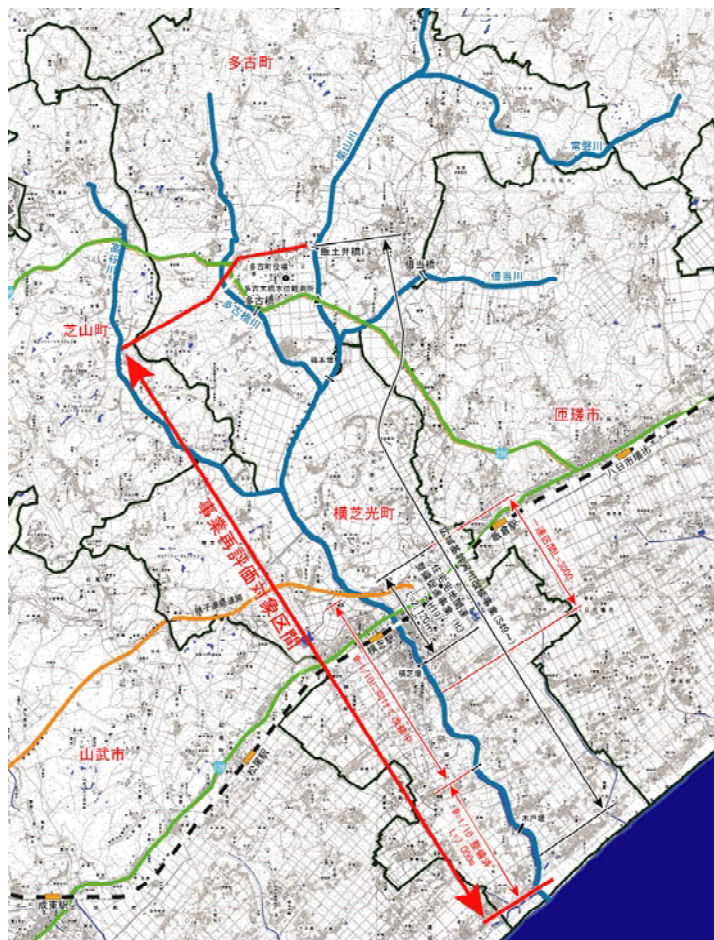
- ・住宅市街地基盤整備事業

対応方針 (案) 事業継続

事業概要図

番号	1	事業名	住宅市街地盤整備事業	路線又は箇所名等	二級河川南栗山川水系 栗山川
----	---	-----	------------	----------	-------------------

位置図



代表断面図

○ 栗山川

